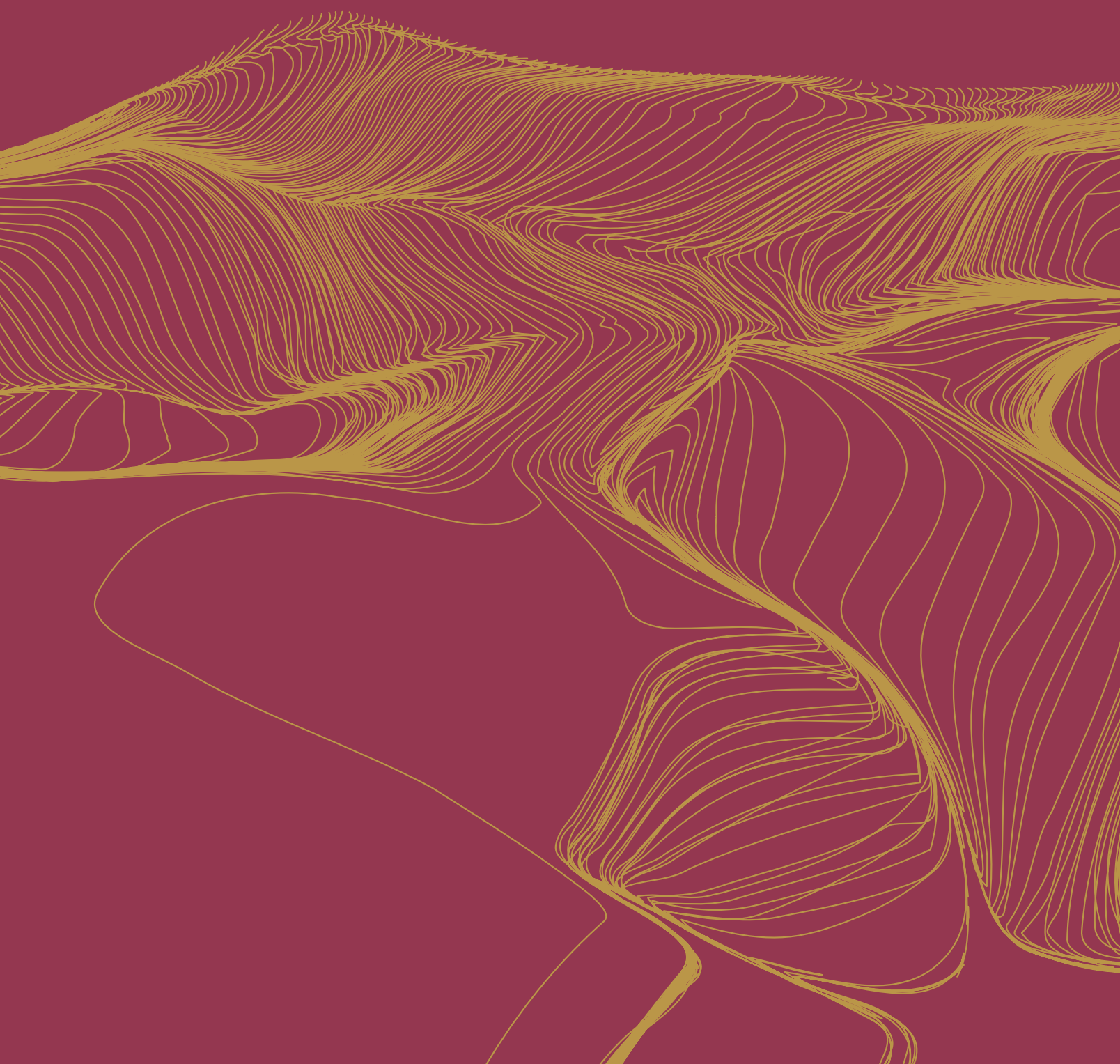


常設委員會報告





総務委員会報告

委員長 阿部 暢夫

1. 総務委員会としてのこの10年

常設委員会としてこの10年の変化は、静岡県協会の参入により、愛知・岐阜・三重・静岡の4支部となり会員数が増加し、40社から60社程度まで協会の規模が増大したこと。

また一般社団法人を取得して法人化したことにより、協会運営に対して変化があったことなどが挙げられます。

2. 総務委員会の役割

総務委員会は、10名程度の人員で担当副理事長、委員長、副委員長、委員で構成されています。

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しており主な活動としては、

- イ) 公正取引に関する法令遵守及び倫理規定に関すること
 - ・ 独占禁止法遵守講習会の開催
- ロ) 新入会員の入会促進運動
- ハ) 地質調査の資格試験に関すること
 - ・ 地質調査技士資格試験・講習会の実施
 - ・ 登録更新講習会の実施
 - ・ 地質情報管理士・応用地形判読士の検定試験
 - ・ その他地質調査技士に関すること
- ニ) 四支部協議会の実施
- ホ) 会員相互の親睦会の実施
- ヘ) その他協会運営に関すること

以下に主な活動報告を致します。

●親睦ボーリング大会

毎年新年度の5月に実施しております。参加者は20社前後で約80名程度と多数であり会員間の親睦に役立っております。

●地質調査技士資格試験受検者対象講習会

地質調査技士資格試験に備えて実施しております。参加者は30から50名程度であり、全国地質調査連合会の資料を用いた講習会です。

●地質調査技士等資格検定試験

地質調査技士(現場調査・現場技術管理)土壌・地下水汚染・応用地形判読士、地質情報管理士の試験を同時に行っています。毎年合計で120名程度の受検者となり、合格者は40名程度です。

●コンプライアンス講習会

コンプライアンス講習会は5団体(中部地質調査業協会・建設コンサルタンツ協会・日本補償コンサルタント協会・愛知県測量設計業協会・全国上下水道コンサル

タント協会)で公正取引委員会中部事務所・社会保険労務士法人・国土交通省中部地方整備局・名古屋国税課等に講師依頼を行い主に独占禁止法等について毎年行っています。

例年270名程度の参加者であり、大規模な講習会となっています。



コンプライアンス講習会実施状況

●地質調査技士登録更新講習会

登録更新講習会は、全国地質調査連合会の指導により毎年12月頃実施しています。毎年180名前後の受講者で、4人の講師を派遣し6時間の講義時間で行っています。一部CPDによる登録更新も行っています。

●四支部協議会

中部地質調査業協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部地質調査業協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

●新春賀詞交換会・麻雀大会

賀詞交換会は毎年1月に麻雀大会を行い協会員の親睦を図るために行っています。毎年15～20社30名前後の参加者になっています。

なお、これらの事業はこの2年間コロナ感染対策により中止又は形を変えての実施となりました。

3. これからの総務委員会のあり方

当委員会は協会活動の総括的な部分を担当しており、多くの事業をまとめています。これらの事業は非常に重要なものでありほとんどが毎年行われています。この事業を円滑に進めるとともに、協会員のニーズにあった新しく魅力ある取り組みも検討する必要があると考えます。

総務委員会は協会員の要望に応え、それらの運営に対して努力していきます。

最後に委員会活動に対してご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。

常 設 委 員 会 報 告



研修委員会報告

委員長 大久保 卓

令和3年度の研修委員会のメンバーは以下の10名で構成されています。

委員長：大久保 卓((株)大和地質)
副委員長：小川 博之((株)アオイテック)
委員：都築 孝之(日本物理探査(株))
委員：中山 宏史((株)総合開発調査)
委員：大出 彰宏(日特建設(株))
委員：小笠原朋弘((株)ティビー)
委員：伊藤 健二((株)日さく)
委員：中野強一郎((株)中野地質)
委員：大井 寿彦((株)東日)
委員：高橋 将也(村木鑿泉探鉱(株))

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

- イ) 協会員の技術向上のための技術研究会・講習会の開催
- ロ) 現場見学会による研修会の開催(隔年実施予定)
- ハ) 技術講習会としての新春技術者講演会の開催
- ニ) 女性技術者活躍推進座談会の開催

以下に主な活動について報告します。

尚、今年度の委員会活動は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、いくつかの計画していた企画が中止となりました。

●令和3年度 現場見学会の開催

開催日時：令和3年11月11日(木)

場 所：岐阜県瑞浪市瑞浪博物館周辺

参 加 者：26名

講 師：名古屋大学博物館長 吉田 英一先生



写真-1 現場見学会の様子

研修内容は、

- 1) 地層(堆積岩)の野外における基本的調査手法－クリノメーター・コンパスの使い方、ルートマップの

作成から柱状図の作成。

- 2) 地層(堆積岩)中の堆積構造について－堆積物の大きさは礫(2mm以上)、砂(2～1/16mm)、泥(1/16mm未満)に分類。貝化石の産状、生痕化石。スランプ構造、海底地すべりの地層の現れ方。
- 3) 地層(堆積層)における風化や断層構造の特徴について－断層破碎帯の出来方(ガウジ)。破碎帯の特徴(滞水帯・貯油層・花崗岩中の断層と原油の関係)。風化は物理的・化学的・生物学的の3種類。
- 4) 球状コンクリーションについて－球状コンクリーションの仕組み(地質学ではなく化学)。地層堆積時間とは異なる超高速ダイアジェネシスとコンクリーションの違い。球状コンクリーションとマンガンノジュールと珪化木との違い等。

参加者全員が、真剣な眼差しで先生の説明を聞いており、後半にはリラックスして質疑等を交わし、大変盛り上がりしました。



写真-2 現場見学会参加者の集合写真

●新春技術者講演会

令和4年1月28日に開催が決定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い1月17日の役員会にて了承を得て、中止を決定させていただきました。2年連続での中止になり、講演をしていただく予定であった岐阜大学の沢田先生には原稿まで作成していただいていたので、大変申し訳なく思っております。又、会員各位には開催案内を出した後の中止発表となり、大変ご迷惑をおかけいたしました。

●女性活躍推進ワーキング活動

女性活躍推進ワーキング活動につきまして、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、ほとんどの行事を中止とさせていただきます。

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員、女性技術者WGのメンバー及び会員各位に心から感謝申し上げます。



広報委員会報告

委員長 河原 弘明

令和3年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の11人のメンバーで構成されています。

委員長：河原 弘明(中央開発(株))
副委員長：熊坂 明生(川崎地質(株))
委員：森 理(協和地研(株))
委員：狩野 行宏(昭和設計(株))
委員：亀谷 祐幸(大和探査技術(株))
委員：佐藤永一郎((株)中部ウエルボーリング社)
委員：川原 久幸((株)ティコク)
委員：竹市 雅司((株)東京ソイルリサーチ)
委員：服部 剛明(服部エンジニア(株))
委員：堀内 律輝(復建調査設計(株))
委員：藤森 弘則((株)増田地質工業)
(委員の順番は会社名頭文字のあいうえお順)

本年度の広報委員会活動は、令和3年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- イ)発注者に対する広報活動
- ロ)中部地方整備局との意見交換会
- ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
- ニ)全地連積算委員との連携
- ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
- ヘ)改訂版積算資料の広報宣伝活動
- ト)広報活動での「土と岩」配布

以下に、主な活動について報告します。

●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会社のご協力を頂き、8班編成で6月下旬～8月下旬にかけて行いました。

一次官庁本局については、理事長、副理事長、広報委員長が訪問しました。

広報委員会が担当する愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人については、コロナ感染拡大防止の観点から、訪問を自粛し、広報活動資料の配布を行いました。

愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会は、各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・機関誌「土と岩」69号
- ・全地連作成「地質リスク調査検討業務」の手引
- ・防災協定の写し

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌69号は、「豪雨災害から感じた相互協力体制の必要性」として岐阜大学の沢田先生からのご寄稿や中部ミニフォーラム2020に関する内容が示されており、優秀論文賞2編の方にも論文執筆いただいております。また、身近な地質スポット「第三弾」の紹介等盛りだくさんの内容を記載しています。

同号には令和2年10月29日に国土交通省中部地方整備局と行った「令和2年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の様様も報告しています。

広報活動の際に各発注者へ配布しました全地連作成「地質リスク調査検討業務」の手引は、地質リスクマネジメント(=地質・地盤リスクマネジメント)の中核の一つとなる「地質リスク調査検討業務」について、業務の発注や実施に際して重要となる事項をまとめたものです。地質リスク調査検討業務の主眼は、各建設段階において地質リスクを抽出・分析・評価し、対応を検討することであり、建設生産システムにおける一貫通貫のリスクマネジメントの一部として極めて重要なものとなっています。是非ともご活用ください。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問に関わらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「令和3年度地質調査業に関する中部地方整備局との意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度もできるだけ早期に開催できるように取り組み、令和3年10月29日にWEB会議形式にて開催し、整備局より貴重なご意見を賜りました。その様様は本誌でご報告いたしますので、是非ともご覧ください。

●委員会の取り組み(直近10年)

広報委員会は、(一社)中部地質調査業協会60周年を迎え、直近、10年間では委員長、副委員長、各委員の交代もあり、コロナ禍ではありますが継続的な広報活動を行ってきました。今後もますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。

常 設 委 員 会 報 告



技術委員会報告

委員長 深谷 雄二

今年度も昨年度に引き続き、ミニフォーラムの企画・開催や学協会行事への共催、協力を主な活動としてきました。

技術委員会のメンバーは、以下の9名です。

委員長：深谷 雄二(玉野総合コンサルタント(株))

副委員長：松浦 好樹((株)ジーベック)

委員：浅川 実(日本エルダルト(株))

委員：片岡 泰((株)キンキ地質センター)

委員：勝眞 浩一(南海カツマ(株))

委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))

委員：土屋 国彦(土屋産業(株))

委員：広瀬 義純((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)

委員：由井 恒彦(松阪鑿泉(株))

主な技術委員会活動は、以下の通りです。

イ) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進

・「中部ミニフォーラム2021」企画・開催(R3.10.22)

ロ) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部

等の諸行事への共催、事業協力

なお、例年開催の「地盤調査ボーリング作業、物理探査見学会」は、主催者の地盤工学会中部支部からも好評なので是非実施したいとの意向もあり、4月開催を7月開催に延期したものの、まん延防止等重点措置が解除されなかったため残念ながら中止となりました。また、全地連が主催する講演会の開催支援についても今年度の活動はありませんでした。

■中部ミニフォーラム2021

コロナウイルス感染拡大の影響で一時は開催も危ぶまれましたが、9月末をもって緊急事態宣言が解除され、予定していた10月22日、名古屋国際会議場にて、開催することができました。昨年度と同様、徹底的な感染対策を施したうえで開催となりましたが、47名のご参加をいただきました。

今年度も昨年度と同様、若手・中堅技術者の発表力の向上に注力し、発表編数も昨年度の7編とほぼ同じの8編とし、「若手・中堅技術者の発表練習の場」という位置付けとしました。昨年度の特別講演で実施した各発表に対する講評について、アンケート結果では良かったとの意見を多くいただいたことから、今年度は各発表内で質疑と講評を行うこととし、発表12分、質疑・講評で8分の時間配分としました。講評は、事前に査読した技術委員が担当させていただきました。各セッションでは、講評に加え、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

特別講演は、昨年度のアンケートでご意見をいただいた施工サイドからの地質調査のあり方についてという

観点でサンコーコンサルタント本社地質部の今井博氏に「建設業における物理探査」というテーマで、ご講演をいただきました。物理探査の基礎から、調査や施工での実用例について解説していただきました。かなり専門的な内容ではありましたが、質問も多くあり、物理探査に対する関心が高いと感じました。

優秀論文発表者は、論文(技術委員会による最終稿審査)及び発表審査の結果、下記の2名の方に決定しました。

- ・「連続加圧方式による保水性試験の加圧方法が水分特性曲線に及ぼす影響」
：石原聖子(中部土質試験協同組合)
- ・「横坑内ボーリング作業の安全管理」
：斉藤倫久((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)



中部ミニフォーラム2021発表会場

関連する学協会の行事への共催・後援については下記に示すとおりであります。今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響でいずれもWeb開催となりました。

■地盤工学会中部支部

- ・第30回調査・設計・施工技術報告会(R3.6.25)
Web形式で開催
- ・第33回中部地盤工学シンポジウム(R3.8.10)
Web形式で開催

■日本応用地質学会中部支部

- ・応用地形判読講習会(平地・丘陵地の応用地形判読講座)(R3.12.3)Web形式で開催

その他の活動として、本誌特別企画への投稿、リモート検尺の実施事例の収集を実施しており、今後も継続する予定です。



防災委員会報告

委員長 大橋 大輔

令和3年度のメンバーは以下の8名です。

- 委員長：大橋 大輔((株)朝日土質設計コンサルタント)
副委員長：武藤 英教(青葉工業(株))
委員：御宿 洋二((株)興栄コンサルタント)
委員：下原 甚介(国土防災技術(株))
委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
委員：岡野 直次((株)ランドテクト)
委員：谷口 昇(丸栄調査設計(株))
委員：齋 秀((株)東海建設コンサルタント)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

- 1.中部地整との災害協定に基づく、事業者リストの更新作業
- 2.「南海トラフ地震対策中部圏戦略会議」の構成員として、各種会議や防災訓練に参加
- 3.震度6弱の地震を想定した防災訓練の企画・実施

1.事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行いました。今年度は、登録協会員59社、本店・支店・営業所を合わせて計95事業所が登録され、登録派遣人員数は567名、ボーリング台数149台となっています。

2.南トラフ対策戦略会議の構成員としての活動

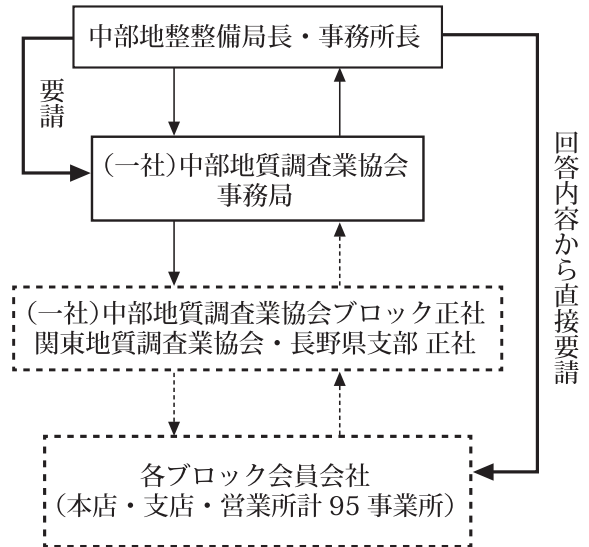
令和三年5.20第12回戦略会議(リモート会議)に鈴木理事長と共に出席しました。構成機関は、「中部圏地震防災基本戦略」に基づいて取り組みを進めるとともに、戦略会議や地震・津波対策アドバイザリー会議による情報共有・意見交換や南海トラフ巨大地震を想定した訓練等を連携して進めています。

3.「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練をおこなっています。中部地方整備局管内で震度6弱の地震が発生し、協会事務局が被災したことを想定して9月24日に実施しました。

施設提供の協定により中部土質試験協同組合に災害応急対策本部を設置し、訓練当日は5県にまたがる登録協会員95事業所に対し、PCメールで情報収集を行いました。

登録95社中79社(83.2%)が出動可能との連絡があり、メール連絡網は十分機能していることが確認されました。土質、地質、地すべり技術者合わせて216名、機長・助手142名、ボーリング機械75台が出動可能という結果でした。



防災訓練

以上が活動報告です。

全国に災害が多発する中で、中部地整との災害協定を軸に、中部土質試験協同組合との施設提供の協定締結や、地盤工学会中部支部との災害時相互協定の締結も行い、協会としての防災体制を構築してきました。

この協定を円滑にまわすためには、構成員のBCP体制の構築が不可欠となってきています。

会員各社におかれましては、引き続き要請時への連絡派遣対応が円滑にできるよう社内防災体制の確立にいつそう努めていただきますようお願い申し上げます。

常設委員会報告



編集委員会報告

委員長 今井 良則

令和3年度の編集委員会は、下記の8名で運営してきました。

委員：今井 良則(応用地質(株))
副委員長：富岡 伸芳((株)ダイヤコンサルタント)
委員：小川 満(明治コンサルタント(株))
委員：黒田 了介((株)グランドリサーチ)
委員：藤本 義裕((株)東建ジオテック)
委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
委員：小田 秀昭((株)建設コンサルタントセンター)
委員：阿部 卓也((株)岐阜ソイルコンサルタント)

本年度の編集委員会活動は、以下の通りです。

- ①中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」69号の発刊・配布先の検討・配布と70号(60周年記念号)の企画・制作
- ②中部地質調査業協会のホームページの管理および更新・改良(HPワーキング担当、次頁にホームページワーキンググループの活動内容を別途掲載)。

●委員会の役割と活動内容

編集委員会の主な役割は中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」の編集と発行です。

本誌は、今から遡ること59年前の1962年(昭和37年)に「会報」として創刊されました。発刊当初は、協会員向けの理事会報告や技術紹介などの内容でした(当協会のホームページでも第40号から閲覧することができますので是非ご覧下さい)。その後、「散文記事」や「趣味・観光など」のバラエティ色を加え、一般の方々にも読みやすい工夫を続けてまいりました。また、「特別寄稿」や「ミニフォーラム優秀論文」、「現場研修会報告」など技術的にも活用できる記事は継続し好評をいただいております。その他にも、毎年開催されております中部地方整備局との「意見交換会報告」や「常設委員会報告」も掲載し、協会の活動状況を発信し続けております。

以上のように、本誌は、協会員向けの機関誌から、現在では、発注機関や学会等の方々にも興味を持っていただける広報誌としての役割も担うようになってまいりました。今後も、地質調査業や当協会の活動をより多くの方々にも認識していただけるように掲載記事の工夫を続けてまいりたいと思います。

●60周年記念号について

本年度の「土と岩」70号は、60周年記念号となります。本来であれば、昨年度の69号が60周年記念号となるはずでしたが、コロナ禍による60周年記念事業の延期とともに記念号発刊も本年度に延期となりました。

また、記念号の内容につきましても60周年記念式典や

特別講演の様子なども掲載する予定でしたが、コロナ感染により記念式典も中止となったため、残念ながら掲載することは叶いませんでした。



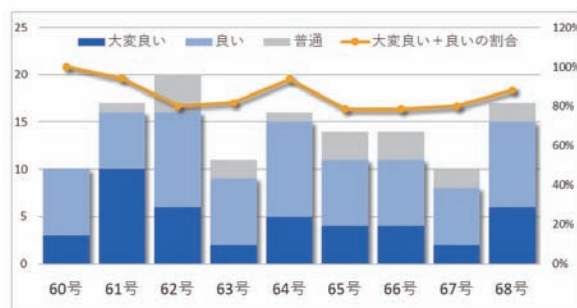
しかしながら、記念号は、これまでの協会活動の10年を振り返り、次の10年の成長や発展に貢献するという編集方針に沿って多くの方々に御協力をいただくことができました。

読者の皆様には、「記念特集」や「特別企画」「特別寄稿」などの特集内容を一読していただき、今後の業界発展や業務に生かしていただければと思います。

●今後の取組みについて

本誌では毎号、読者アンケートを募っております。下記のグラフは、毎号掲載されている「特集」についてのアンケート結果です。アンケートに回答いただける方は、過去10年の平均では15名程度となっており、「大変良い」「良い」と回答した方は平均12名程度です。回答者の86%の方々には「特集」記事について好評をいただいております。アンケートでいただいたご意見には「わかりやすかった」「読みやすい」「面白かった」などの御意見も多くいただいております。

今後も、皆様方に役立つ、分かりやすい記事の掲載を続け、一般の方々にも興味を持っていただける機関誌づくりを目指したいと思いますのでよろしくお願いいたします。





特別委員会報告

委員長 中西 晃

◆特別委員会設立の経緯

特別委員会は、協会創立60周年記念事業を企画運営するため令和2年(2020年)度事業として設置されたものであり、その1年前の令和元年末から、理事長、副理事長および常設委員会の各委員長から組織した準備委員会を設置して企画作業に着手しました。

周年事業は、先の50周年時に開催された式典・祝賀会、その他企画事業が成功裏に終わった直後から構想されていたと言えます。10年の節目毎に協会員一同がそれを祝い、また関係各位に感謝の意をお伝えしていくことが協会として一つの使命でもあるとともに、様々な社会情勢が変化してきた10年を振り返り、次の10年の課題を考える良い機会になることを願って企画を進めました。

◆特別委員会の活動

特別委員会は、下表にまとめたとおり、令和元年10月のキックオフから4回の準備委員会を経て、令和2年度の特別委員会発足への足掛かりとしました。しかし、その立ち上がり第1回目において、コロナ感染症により1年の延期を余儀なくされました。中止ではなく延期としたのは東京五輪に倣ってのことでしたが、東京五輪は緊急事態宣言下での開催に踏み切ることができましたが、式典開催が予定されていた10月12日の1カ月前に止む無く中止を判断することとなりました。ギリギリの判断となったため、来賓の方々には招待状をお送りした後に、慌てて中止となったお詫び状を発送することになり、皆さまには大変ご迷惑をお掛けしました。

令和元年10月2日	準備委員会キックオフ 基本方針・日程・企画内容の 骨子
令和元年12月17日	第1回 準備委員会 式典規模・役割分担・予算案
令和2年1月28日	第2回 準備委員会 式典準備(来賓者・表彰者・ 記念講演者の選定等)
令和2年2月28日	第3回 準備委員会 式典内容(記念講演・祝賀会 内容)
令和2年3月30日	第4回 準備委員会 式典の中止判断基準の検討
令和2年6月10日	令和2年度 第1回 特別委員会 全ての記念事業1年延期決定
令和3年6月18日	令和3年度 第1回 特別委員会 式典の中止判断基準の検討

令和3年7月9日	令和3年度 第2回 特別委員会 事業工程・式典規模・広報活動
令和3年8月3日	令和3年度 第3回 特別委員会 進捗確認・式典案内の送付
令和3年9月1日	令和3年度 第4回 特別委員会 式典中止決定・残る企画事業の 検討
令和3年9月22日	令和3年度 第5回 特別委員会 残る企画事業の進捗確認
令和3年10月12日	記念式典開催(予定)→中止 新聞1面広告掲載

式典の中止により、名古屋大学名誉教授・浅岡顕先生に特別講演会をお願いしていましたが、併せて中止とさせて頂きました。また残された企画事業は、本誌の前半に紹介したとおり以下の企画を実施することができませんでした。詳細はそちらをご覧ください。

- ◎受賞者表彰
- ◎記念品の配布
- ◎記念誌の発刊
- ◎その他広報活動(新聞広告、ホームページ掲載)

また、受賞者表彰・記念品の配布については「総務委員会」に、記念誌作成においては「編集委員会」「技術委員会」「広報委員会」の協働で企画運営に当たって頂きました。

◆終わりに

協会創立60周年事業については、本誌の発刊をもって完了することとなりましたが、準備して頂いていた浅岡先生の特別講演会については、別の機会での開催についての企画検討も含めて宿題とさせて頂いています。

また、今回はコロナ感染症拡大のタイミングに重なり、周年事業の企画を進める難しさを痛感することとなりましたが、これを次回10年先の教訓として、次世代の協会員に伝えられればと思います。

最後に、本誌および新聞広告にお祝いのお言葉を頂きました関係各位の皆さまに厚く御礼申し上げます。次の協会創立70周年の際は、式典の壇上から、また祝賀会の会場においてお言葉を賜り、皆さんと共に喜び合えるようになることを祈念いたします。

常設委員会報告

女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活躍推進WG 岩崎 理代

1. ワーキングの構成

女性活躍推進ワーキンググループは平成30年度に研修委員会のもとで新しく発足され、発足から3年を迎えた。昨年度に引き続き以下7名のメンバーを中心に活動を行ってきた。

リーダー◎岩崎 理代((株)ダイヤコンサルタント)
 石原 聖子(中部土質試験協同組合)
 下山 友実(玉野総合コンサルタント(株))
 高見 幸恵(川崎地質(株))
 二宮 真帆((株)朝日土質設計コンサルタント)
 平江 喜子(応用地質(株))
 三好 千春(東邦地水(株))

2. 活動の概要

令和2年度のワーキングの活動は新型コロナウイルスの影響で制限されたものの、ZOOMを活用したリモートでの活動や、女性技術者座談会の開催や女子高校生に向けたミニ授業などの活動を行ったが、令和3年度の活動は新型コロナウイルスのさらなる感染拡大の影響を受け、対面で行うほぼすべての行事、WG活動を断念せざるをえなかった。

令和3年度の活動の内容は主に昨年度からの継続活動として行っている以下2点。

①内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加(本年度初：リコチャレネットワーク会議へのリモート参加)

②SNSでの情報発信をするべくTwitterの運用を行った。

なお、昨年度からの継続活動である女性技術者座談会、大学オープンキャンパスへのブース出展、女子中高生へ向けたミニ授業などの活動は断念せざるをえなかった。

またこのような状況の中、本年度の新たな取り組みとして、③女性技術者へ向けたメルマガ配信を不定期で行った。

①内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加

理工チャレンジ(リコチャレ)とは理工系分野に興味のある女子中高生・女子学生に向けて進路選択を応援するため内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組みで、理工系分野の大学や企業などが『リコチャレ応援団体』として紹介されており、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介などを行っている。

リコチャレの活動としては、今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、イベントの掲載を行わない、やりリモートでのイベント開催の掲載を行うなど、新型コロナウイルス感染症拡大に対応した活動をするべく手引きがあったが、本WGではその手のノウハウや集客方法、インターネットや機材環境等まだまだメンバーで未知の部分があり、リモートでの参加を見送るこ

ととしたが、詳細は後述3項で報告する「理工系女子応援ネットワーク会議」へ参加し、リモートでの体験会、ミニ授業等のノウハウや取り組み事例、他業種他企業の女性技術者との意見交流を行ったことで、来年度以降の活動へヒントが得られた。形態はどうあれ今後も女子学生の進路選択に地質調査業を一つの道として考えられるよう、ワーキングの活動などを発信していくため、定期的な更新や活動の掲載依頼を行っていききたい。

②SNSでの情報発信

地質調査業知名度向上を目指した活動の一環としてより多くの若者や女性に業界のことを知ってもらうためにSNS(Twitter)での定期的な情報発信を行っている。情報の内容としては、地盤・地質・土質等幅広く、専門的なことから誕生石や化石についての話題、現場近くのスポット情報など学生に興味を持ってもらえそうな内容まで幅広く行っている。内容に関しては、業務内容に差しさわりのないものやハッシュタグなどいくつか制限を設けたり、メンバーで模索中というところもあるので現在の更新頻度はさほど高くないが、今後さらに更新内容を充実していきたいと思う。

応援の意味を込めて、ぜひフォローしていただきたい。
 (@chubu_geo_waw) / Twitter



図-1 TwitterロゴとQRコード

③女性技術者へ向けたメルマガ配信

本年度は女性技術者座談会の開催を見送ったため、それに代わるコミュニケーション手段を模索した。

メルマガの配信はWG発足後3年間で女性技術者座談会に参加していただいたことのある方を対象に配信し、身辺の女性技術者へ本活動の紹介を促した。

配信内容は、本WGの活動紹介や過去の座談会への参加お礼に加え、専用メールアドレスへのよろず相談受付のお知らせを書き添えた。ワークライフバランスのとり方などで不安に思うことやWG活動への参加希望などなんなりとご用命いただければと思う。

本年度は試験運用であるが、四半期に一度の配信を目指し、来年度活動へ継続していく予定である。

3.内閣府の取り組み(リコチャレ)「理工系女子応援ネットワーク会議」への参加

女性活躍推進ワーキンググループでは2021年10月13日に「理工系女子応援ネットワーク会議」へ参加した。

例年の本会議は東京での開催とのことで参加を見送っていたが、今年はリモートでの参加が可能となった本会議には全国から103団体・148名が参加した。

まず最初に内閣府男女共同参画局より「理工系女性人材の育成にかかわる取り組みと夏のリコチャレ2021総括」と題し発表があった。その中で科学技術・学術分野における現状と課題、内閣府の取り組み、文部科学省の取り組みについての説明があった。

諸外国と比較した日本の理工系大学への女子学生の進学率の低さや女子学生の科学的リテラシー、数学的リテラシーへの理解度の低さ(2018年の国際基準と比較)等具体的な数字を目の当たりにし、理工系を選択する女子学生の少なさや諸外国と比較した場合の女子学生が理工系分野への理解を促すカリキュラムの整備の遅れ等を感じた。

その中でも近年の取り組みとして、男女共同参画の視点を取り込んだ理数系教科の授業づくりの一例を紹介した啓発資料を示し、文部科学省と連携し、このような授業の普及を図り、教職員等指導者のアンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)を払拭すべく取り組むとのことであった。

確かに筆者も中学・高校と女子校へ所属していたが、私立校独自のカリキュラムの中でも圧倒的文系科目の授業数が多く、課外授業等も文科系の体験が多かったように感じる。

また、STEM Girls Ambassadorsと題し他活動の報告があった。本活動は宇宙飛行士の山崎直子さんをはじめ、理工系分野で活躍している研究者、企業の女性を取り上げ、セミナーやシンポジウムでの公演や広報誌、Webサイト上でのメッセージ発信等を行っているとのことであった。

会議後半部分では、理工系人材の育成に係る基調講演でグーグル合同会社より「コンピュータサイエンス教育とジェンダーに関する取り組み」と題した発表があり、その中で本WGでも今後取り組みを検討している女性エンジニアのロールモデルを通じた交流や体験型ワークショップの展開について紹介があった。キャリアセッションの前で女子学生の意識に大きな差が生まれる等確かな手ごたえがあるとのこと、今後実施を検討すべきと同様の活動の意義を再認識した。

最後に夏のリコチャレ取り組み事例の発表があり、その流れでグループディスカッションを行った。(写真-1)

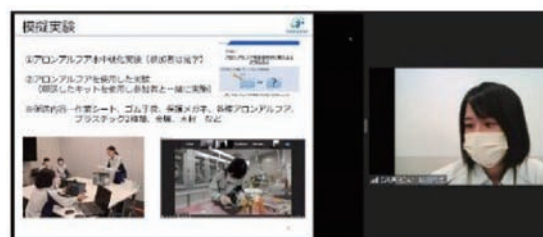


写真-1 取り組み事例紹介・グループディスカッションの様子(内閣府HPより抜粋)

グループディスカッションでは8名程度のメンバーで行い、連絡先の交換やリモート授業の企画や工夫について、ネット配信を行う際の環境の整え方、またそれに伴う集客の方法など実活動に直結する情報交換を行うことができた。

一例として、リモート授業ではただモニターを眺めて終わることの無いよう、参加希望者の実験機材とマニュアルを事前に発送しておき、学年の若い学生に向けては難しい部分は保護者に補助の依頼をしたりと事前準備に関する工夫があったり、体験型の授業をリモートで行うという学生の好奇心を刺激する魅力的な事例を紹介していただくことができた。

本WGでは、この経験をもとに女子中高生の理系への進路選択の応援や、業界の若手獲得に向け、このような活動を利用し広げていきたいと考えている。

4.今後の活動について

女性活躍推進ワーキンググループでは、来年度の活動として、女性技術者座談会の定期開催(年1回)と業界認知度の向上のため、リコチャレイベントの開催やリコチャレHPの更新、SNS(Twitter)での情報発信の充実、地元大学のオープンキャンパスでのイベントの開催を目指していく。

また、今年女性技術者座談会でのアンケート結果に添えるべく、現場見学会などの企画や他の女性技術者の会との意見交換や交流会の開催を進めていき、女性が働きやすい環境・制度を整備できるよう、協会への働きかけを随時行っていきたい。

最後に来年度は新型コロナウイルス感染縮小を願い、本WGの活発な活動ができることを祈る。

ホームページワーキング活動報告

編集委員会・ホームページWG
宮尾 浩一

はじめに

中部地質調査業協会創立50周年から、早いもので、もう10年。60周年の節目に当たり、最近10年の活動状況について、残っている資料等を参考に、独断と偏見で振り返ってみました。

最近10年のメンバーの思い

ホームページワーキングメンバーは、種々の思いを胸に、ボランティアに活動しています。これまでに溢れ出した思い、実現を目指したものの一端を表-1にまとめてみました。この表では、各年度の活動がどの思いに関係していたかも合わせて示しています。

一貫しているのは、“ユーザー目線”で、“役に立つ”といった思い。その思いを軸にして、他の思いも絡めながら、時代に合わせて、思いの実現に取り組んでできていることがわかります。その思いは、現メンバーにも引き継がれています。

最近10年の活動状況

最近10年におけるホームページワーキングの活動状況は、大きく、6期に分けられます。その活動イメージを、車の運転に例えて見てみましょう(表-1)。

2010年：【車両購入】

この時期には、ホームページをリニューアル(車両を購入)しており、CMS(コンテンツ・マネジメントシステム)も導入して、お知らせ等の更新負担の改善を図っています。

2011年～2012年：【エンジン始動・慣らし運転】

この時期には、一新されたメンバーで、新しくなったホームページを使い始めて(エンジン始動)、「会員ページ」と「お知らせページ」の使い分け、「地質調査業とは」、「技術資料」の見直し等(慣らし運転)を行っていました。

2013年：【遠望・行先確認】

前年度までに運転できることは確認できたので、この時期には、一度立ち止まって、将来に目を向け(遠望)、向かうべき方向性の検討(行先確認)がなされ、“訪問者数を増やすための更新可能なコンテンツの充実”といった大きな方向性が出されています。

2014年：【加速走行】

この時期には、メンバー半数が交代していますが、前年度検討の方向性を踏まえて、限られた予算の中での現実

的な実現を図るべく、実施事項を具体化し着手しています(加速)。また、この時期に、スマートフォン・タブレット等で閲覧できるような時代の要請に合わせた利便性の向上(加速)や、利用者意見をワーキング活動へ反映するべく、利用者アンケートが開始(加速)されています。

2015年～2018年：【“定”速走行】

この時期は、前年度までに開始したことの実績、身近な地質スポット、歴史地震スポット等の充実、リンク集の充実などが、トピック関連事項の情報提供と合わせて行われています(定速走行)。また、この時期には、静岡支部のご協力を得て、静岡支部メンバーのワーキング参加や、静岡地域の地質情報の追加が図られています。更新情報のRSS化対応や、利用者意見を踏まえたPDFファイルの別ウィンドウ化、グーグルマップ有料化への対応など、時代の変化に合わせた対応が行われています。

2019年～現在：【減速・“低”速走行】

この時期には、断続的に収集・紹介を続けてきた「身近な地質スポット」を、散文記事として「土と岩」へ提供したり、要望の多かった地質調査に対する基本的情報の充実のため「地質調査技術マニュアル エッセンス」の紹介をしたり、リンク集の充実を図ったりしています。しかしながら、新型コロナウイルス拡大防止対応等もあり、低調な活動が続いています。

次の10年に向けて

以上、見てきたように、50周年からの10年は、“ユーザー目線”で“役に立つ”ホームページにするべく活動してきました。この間に、地質調査・地質リスクの重要性が再認識されています。一方で、新型コロナウイルス等の感染症が広がるなどにより、物理的な活動が制限され、活動が低調になっています。

ホームページワーキングでは、そのような中でも、引き続き、“ユーザー目線”で“役に立つ”ホームページを志向しつつ、今と、次の10年の動きに合わせた活動を行っていきます。引き続き、利用者の皆さまのご支援、ご協力をお願い申し上げます。



表-1 最近10年間のホームページワーキング活動状況

			ワーキングメンバーの思い（●は該当）																	
活動状況 イメージ （運転に例え ると……）	活動 年度	主な活動など（▼：活動内容　■：トピック）	役 立 つ H P	緊 急 連 絡 簿 代 わ り	役 割 等 ア ビ ル	広 報 や 技 術 伝 承	話 題 提 供	ポ ー タ ル サ イ ト 化	ワ ク ワ ク 感	方 向 性 現 実 的 実 現	利 便 性 向 上	ユ ー ザ ー 目 線	一 体 感 醸 成	認 知 度 向 上	ト ピ ッ ク ス	支 部 活 動	デ ー タ ベ ー ス	リ ン ク 集 充 実		
車両購入	2010	▼HPリニューアル　▼CMS（コンテンツマネジメントシステム）導入 ▼会員ページ設置　▼「土と岩」のHP上でのアンケート開始　▼「地 質調査業とは」、「技術資料」見直し開始　など ■メンバー新、長野県北部地震（栄村大震災）	●		●								●							
エンジン始動	2011	▼「会員ページ」と「お知らせ」の役割分担　▼「地質調査業と は」、「技術資料」大幅見直し　など ■東日本大震災			●								●							
慣らし運転	2012	▼「技術資料」に”東海三県の地質と土木地質的特徴”、”自然災害 と地震の脅威”追加　▼「土と岩」№59以降について、内容も閲覧可 能に　など ■九州北部豪雨	●		●	●						●	●			●				
遠望・ 行先確認	2013	▼「中部地方のプロジェクト」の内容見直し　▼「地質調査業とは」 の中に、全地連HPの「日本ってどんな国」シリーズをリンク　▼HPの 将来像議論　訪問者増やすため、更新可能なコンテンツの充実（1） 地質関連トピックス（2）県支部活動内容の報告（3）ハザード マップ等の災害に関するデータベース構築（4）リンク集の充実　など ■HP開設15年、静岡県支部合流、伊豆大島土石流、「新しい津波警報」 「特別警報」運用	●		●														●	
加速走行	2014	▼前年度に議論された方向性への現実的対応。少しずつ形に。（1） 「土と岩」記事をHPに掲載（2）県支部での活動内容をHPで公開 （3）ハザードマップを総合して閲覧できるサイトへにリンク付け （4）リンクしたいサイトを持ち寄り、可否確認してリンク付け　▼ス マートフォン・タブレット端末での利用可⇒HP利便性向上　▼トッ プページの模様替え　▼HP利用状況確認　▼HP利用者アンケート開始 ▼リンク付け：国道交通省ハザードマップポータルサイト、KASHIMIR 3D、SUKIYAKI塾、名古屋大学減災館　など ■メンバー半数交代、長野県神城断層地震	●					●		●	●	●		●					●	
定速走行	2015	▼HP利用者アンケートの整理・分析　▼新たなリンク付け：地質図 Navi、日本シームレス地質図、Kuniziban、インフラメンテナンス情報 ポータルサイト、長野県神城断層地震 災害調査報告書　▼地質見学ス ポットの更新・追加：博物館・資料館、日本ジオパーク、身近な歴史 地震スポット、身近な地質スポット　▼HP利用状況調査　▼HPアン ケート　▼「ご意見・ご質問コーナー」設置（会員ページ内）　など ■口永良部島新岳爆発的噴火	●		●		●				●	●	●		●	●	●	●	●	●
定速走行	2016	▼HP利用者アンケートの整理・分析　▼協会への要望整理・ワーキン グの意見を付して役員会へ報告　▼新たなリンク付け：ジオ・スク ーリングネット　▼バナー追加：全地連「地質と調査」掲載ページ　▼ 静岡地域の地質情報追加準備開始　▼「土と岩」バックナンバー掲載 （2000年以降分）　▼Q&Aコーナーの発展的改良⇒ローモモへ　▼各 コンテンツの訪問状況調査 ■熊本地震、パリ協定発効、台風第7号、第11号、第9号、第10号及び 前線による大雨・暴風	●		●	●		●			●	●	●	●	●	●	●			●
定速走行	2017	▼HP利用者アンケートの整理・分析　▼協会への要望整理・ワーキン グの意見を付して役員会へ報告　▼新たなリンク付け：熊本地震関連 情報集約サイト、日本地下水学会サイト、どこでもダムサイト、ジオ・ スクーリングネット　▼会員企業バナー更新　▼静岡地域の地質情報 追加　▼地質調査関連トピックスの収集と掲載　など ■協会の一般社団法人化	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●
定速走行	2018	▼HP利用者アンケートの整理・分析　▼協会への要望整理・ワーキン グの意見を付して役員会へ報告　▼ローモモ追加　▼グーグルマップ 有料化対応　▼更新情報のRSS化対応　▼PDFファイルの別ウィンドウ 化　▼新たなリンク付け：全地連HP資料センター、全地連HP e- Learnig、ボクたちの”足もと”から地球のことを知ろう、地質標本 館、活断層データベース▼地質調査関連トピックスの収集と期間限定 掲載　など ■HP開設20年、西日本豪雨、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震、 関西国際空港の滑走路浸水	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	
減速走行	2019	▼HP利用者アンケートの整理・分析　▼協会への要望整理・ワーキン グの意見を付して役員会へ報告　▼女性活躍推進ワーキングの追加 ▼機関誌「土と岩」への協力：プラン参考意見交換（最近のトピッ ク）、身近な地質スポット再編集・散文原稿提供　▼利用者の多い記 事へのアクセス改善（リンクボタンの追加）　▼地質調査に関する基 本的な情報の充実：「地質調査技術マニュアル エッセンス」準備　など ■新型コロナ	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			
低速走行	2020	▼「土と岩」への協力：身近な地質スポット再編集・散文原稿提供 ▼「地質と調査」への協力：「各地の博物館巡り」候補選定、現地取 材、原稿提供　▼身近な地質スポット、歴史地震スポットの追加　▼ 新たなリンク：「国土交通データプラットフォーム1.0」、「地質リス クエンジニア（GRE）」、「土木事業における地質・地盤リスクマネジ メントのガイドライン」　▼地質調査に関する基本的な情報の充実： 「地質調査技術マニュアル エッセンス」紹介　など ■新型コロナ	●		●	●	●	●	●		●	●	●	●		●	●			●